

2011年3月期  
第1四半期決算説明会

2010年8月2日  
ヤマハ株式会社

# 2011/3期 1Q決算の概要



■1Q業績は、対前年同期減収増益。前回予想(4/28発表)に対しては売上高ほぼ横這い営業増益。最終利益は22億円

## 対前年同期

- ・売上高は、8.6%(85億円)の減収。為替影響(▲26億円)、リビングおよびマグネシウム部品影響(▲95億円)除けば、対前年同期3.9%(36億円)の増収
- ・営業利益は、実質増収となったことに加え、増産、リビング事業譲渡効果(+5億円)、退職給付債務利差益等により、50億円の増益

## 対前回予想

- ・売上高は、為替影響(▲2億円)を除いた実質ベースで0.1%(1億円)の増収
- ・営業利益は、増産、経費削減等により、32億円の改善

## ■在庫

- ・1Q末在庫は、対前年同期113億円の減少。為替影響(▲53億円)、連結対象範囲の変更影響(▲16億円)を除けば、対前年同期44億円の実質減少。前回予想に対しては仕掛品、部品材料の増加により、実質35億円の増加。在庫レベルは、ほぼ適正

# 2011/3期 1Q業績概要



▶ 対前年同期減収増益、対前回予想では増益

(億円)

	10/3 (1Q) 実績	11/3 (1Q) 実績	前年同期比	前回予想 (10/4/28)	前回予想比
売上高	994	909	▲8.6%	910	▲0.0%
営業利益 (営業利益率)	2	52 (5.7%)		20	257.7%
経常利益	▲5	49	—	15	323.7%
当期利益	▲29	22	—	5	441.6%

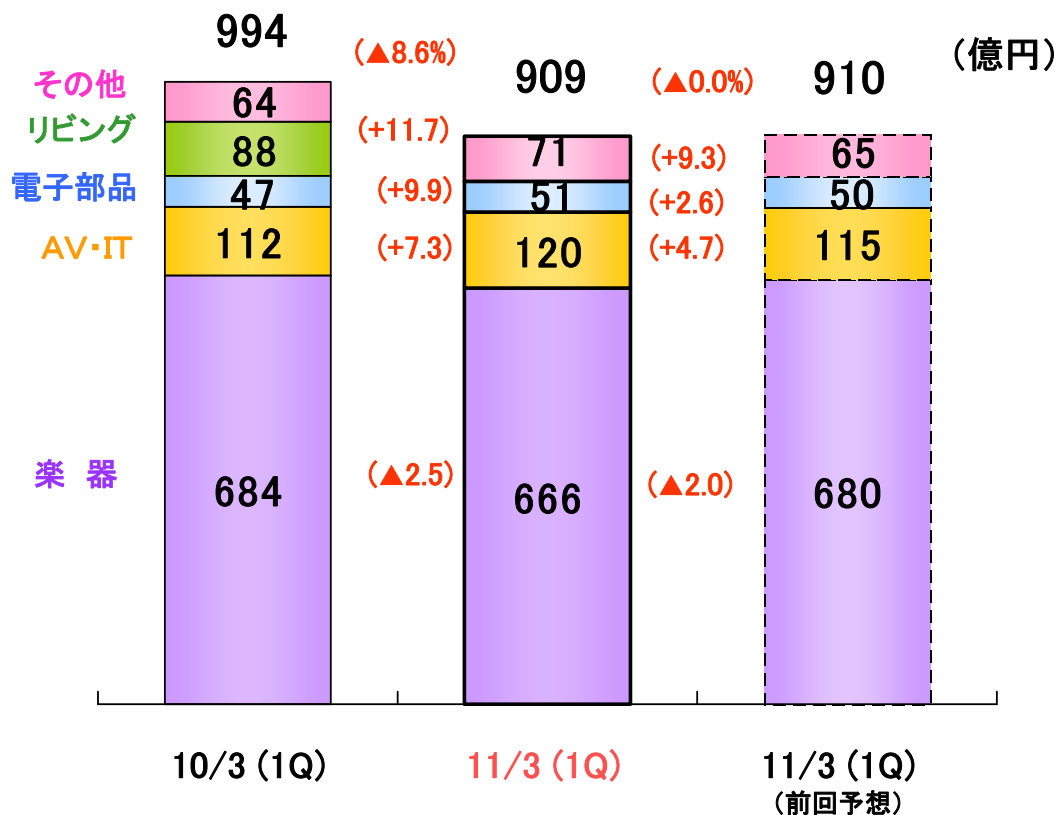
為替レート (円)

売上高	US\$	97	92	90
	EUR	133	117	127
利益	US\$	97	93	90
	EUR	124	123	127

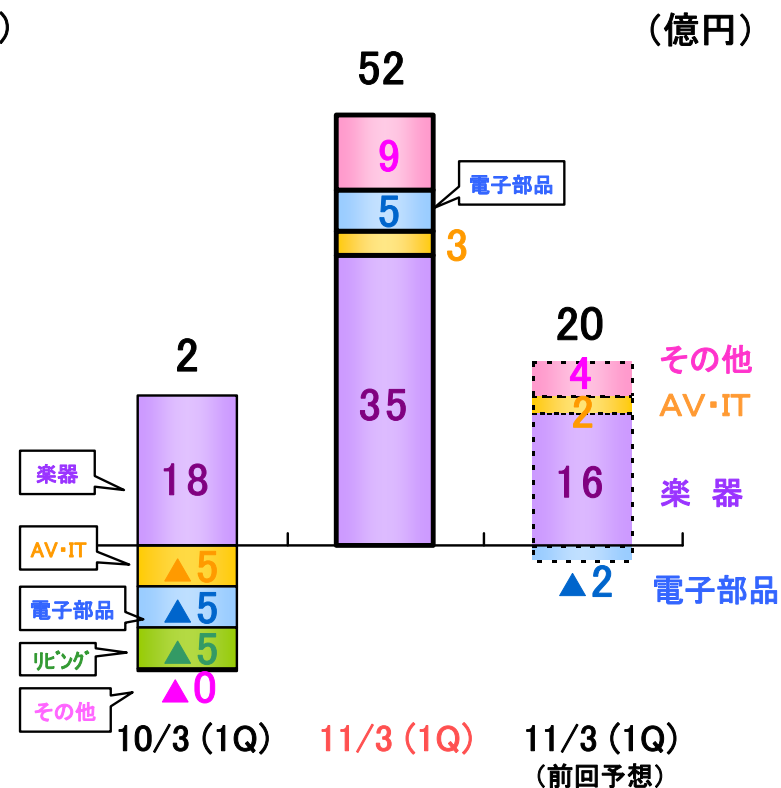
# 2011/3期 1Q事業別業績



## 売上高



## 営業利益



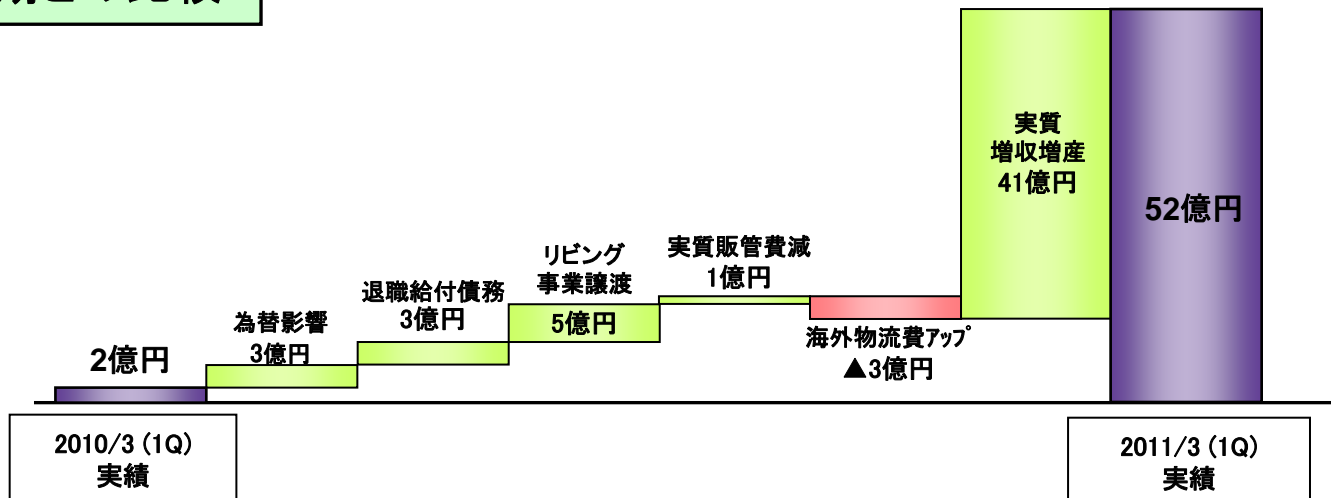
( )内は前年同期比  
または  
前回予想比

	為替影響額
前年同期比較	▲26億円 (楽器▲20億円、AV・IT▲5億円)
前回予想比較	▲2億円 (楽器▲2億円、AV・IT▲1億円)

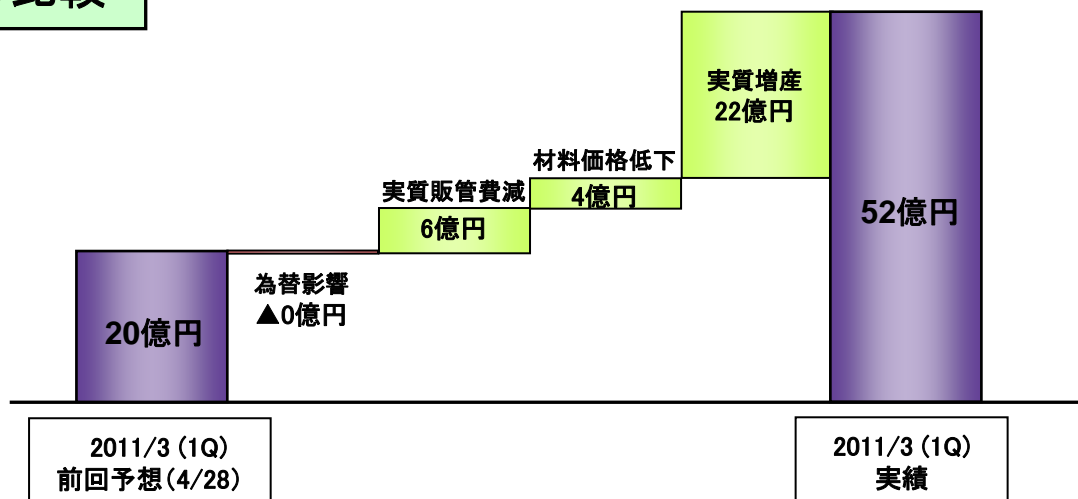
	為替影響額
前年同期比較	+3億円 (楽器+2億円、AV・IT+2億円)
前回予想比較	▲0億円 (楽器+1億円、AV・IT▲1億円)

# 2011/3 期 1Q営業利益増減要因

## 前年同期との比較



## 前回予想との比較



## 2～4Qの事業環境

### ■世界経済は緩やかな回復傾向

- ・中国、新興国市場経済は順調に回復。欧米市場も底打ち気配

### ■円高基調継続

## 2～4Qの状況と施策

### ■楽器、AV機器を中心に、新商品の露出強化等、年末需要期に向けた営業活動注力

### ■中期計画に沿った経営基盤の整備

- ・中国、新興国市場での販売網拡充
- ・国内ピアノ生産の掛川統合(8月)、管楽器の新中国工場生産開始(10月)等、生産体制整備

## 通期の業績見込み

### ■1Q業績および現下の景気動向、為替環境を踏まえ、通期業績を修正

- ・・・前回公表値(4/28)に対し、売上高、営業利益据置。当期利益を下方修正

# 2011/3期 通期業績予想



- 通期業績を見直した結果、売上高、営業利益据置。保有株式の減損による特別損失を折り込み、当期利益を下方修正
- 2～4QのUS\$、EUR為替レートは各々90円、115円を前提

(億円)

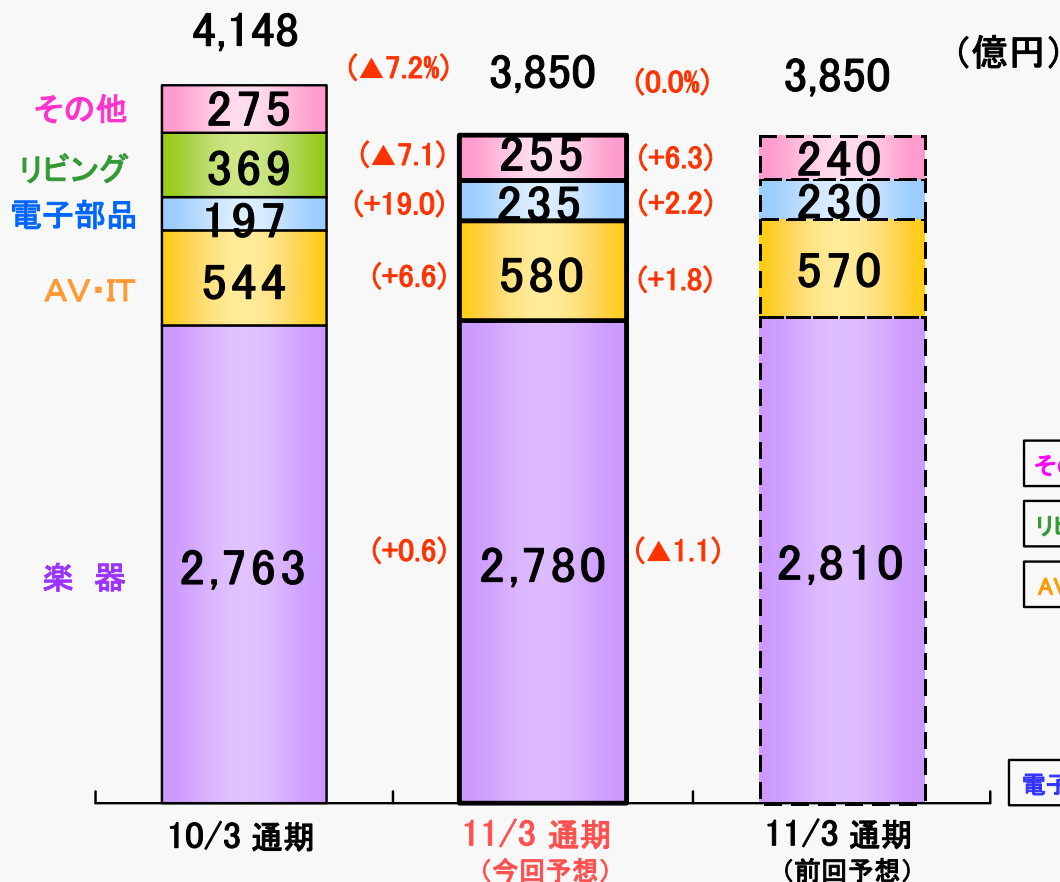
	10/3 実績	11/3 予想	前期比	前回予想 (10/04/28)	前回予想比
売上高	4,148	3,850	▲7.2%	3,850	0.0%
営業利益	68	100	+46.5%	100	0.0%
経常利益	49	75	+52.7%	75	0.0%
当期利益	▲49	40	—	55	▲27.3%

為替レート		(円)				(2～4Q)			
売上高	US\$	93	91	90	90	93	91	90	90
	EUR	131	116	115	127	131	116	115	127
利益	US\$	93	91	90	90	93	91	90	90
	EUR	130	117	115	127	130	117	115	127

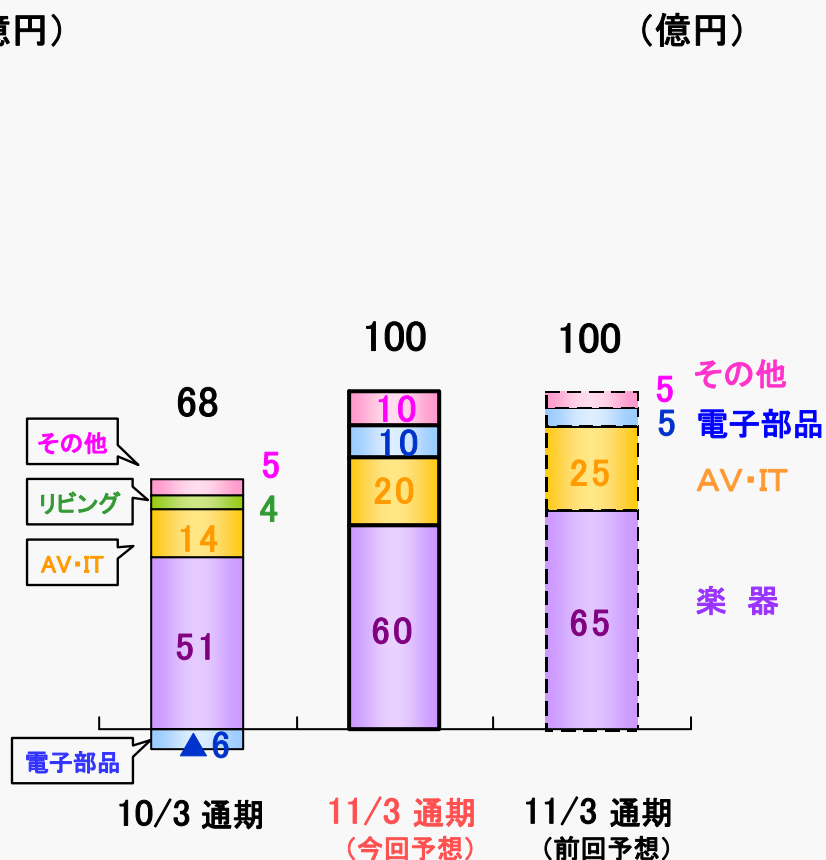
# 2011/3期 通期事業別業績予想



## 売上高



## 営業利益



( )内は前期比  
または  
前回予想比

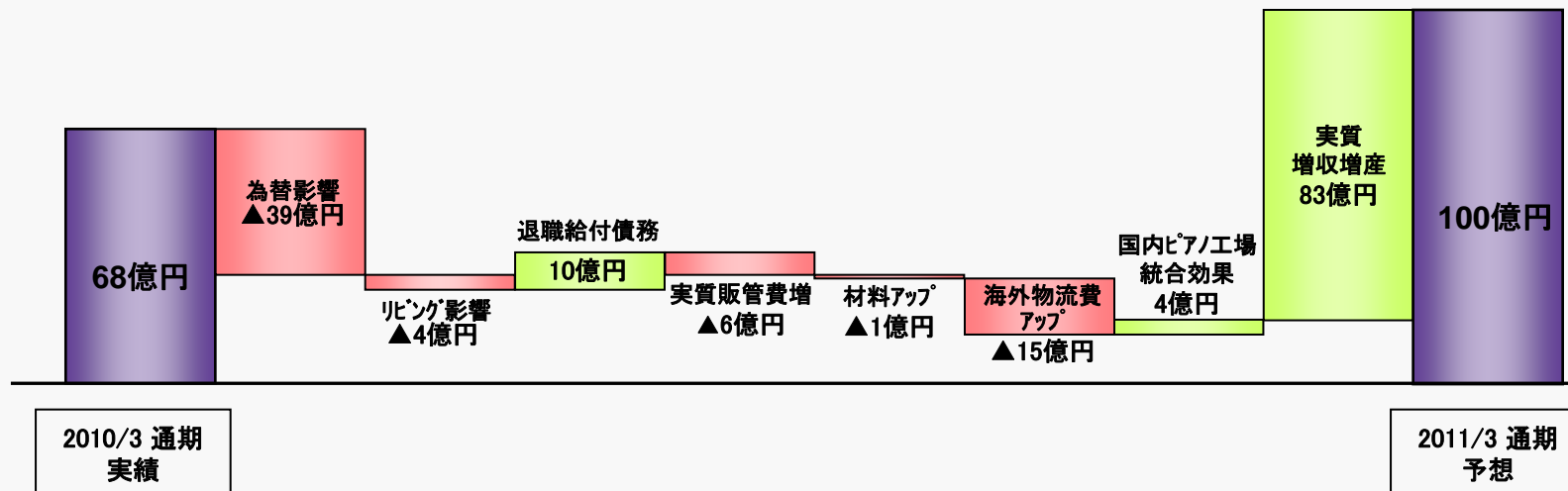
	為替影響額
前期比較	▲108億円 (楽器▲82億円、AV・IT▲25億円、 電子部品▲1億円)
前回予想比較	▲44億円 (楽器▲34億円、AV・IT▲10億円)

	為替影響額
前期比較	▲39億円 (楽器▲33億円、AV・IT▲6億円)
前回予想比較	▲23億円 (楽器▲15億円、AV・IT▲9億円)

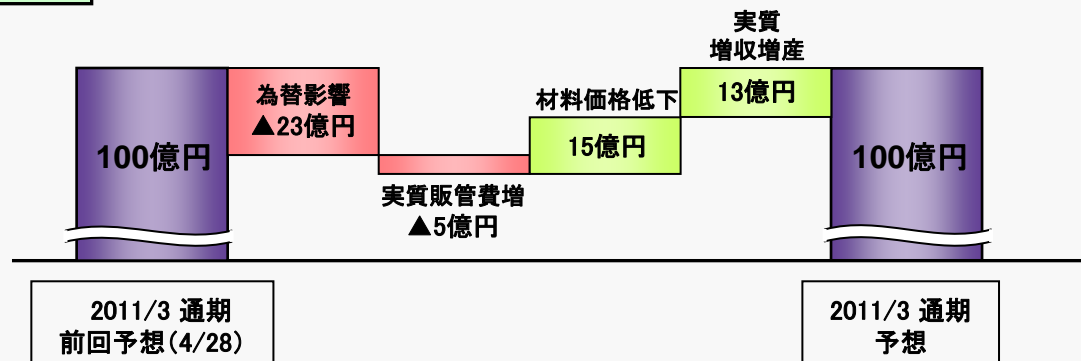


# 2011/3期 営業利益増減要因

## 前期との比較



## 前回予想との比較

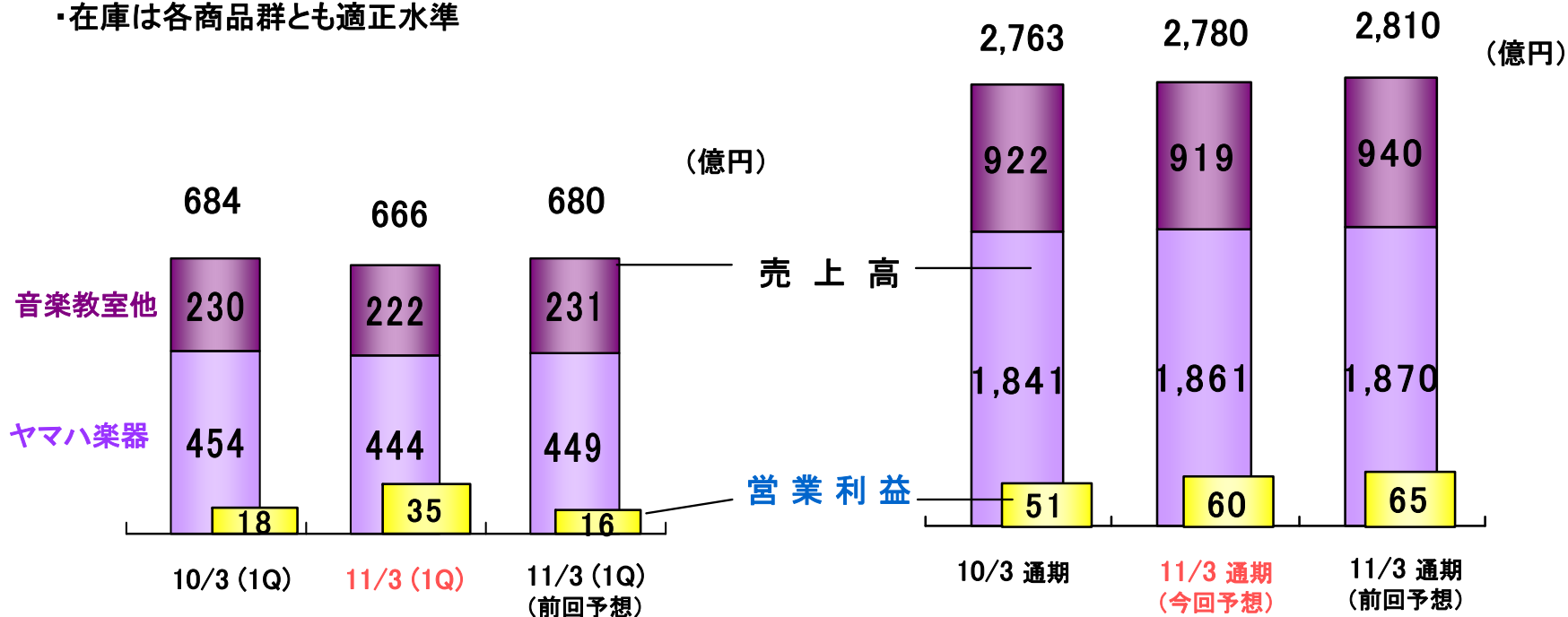


## 1Qの状況

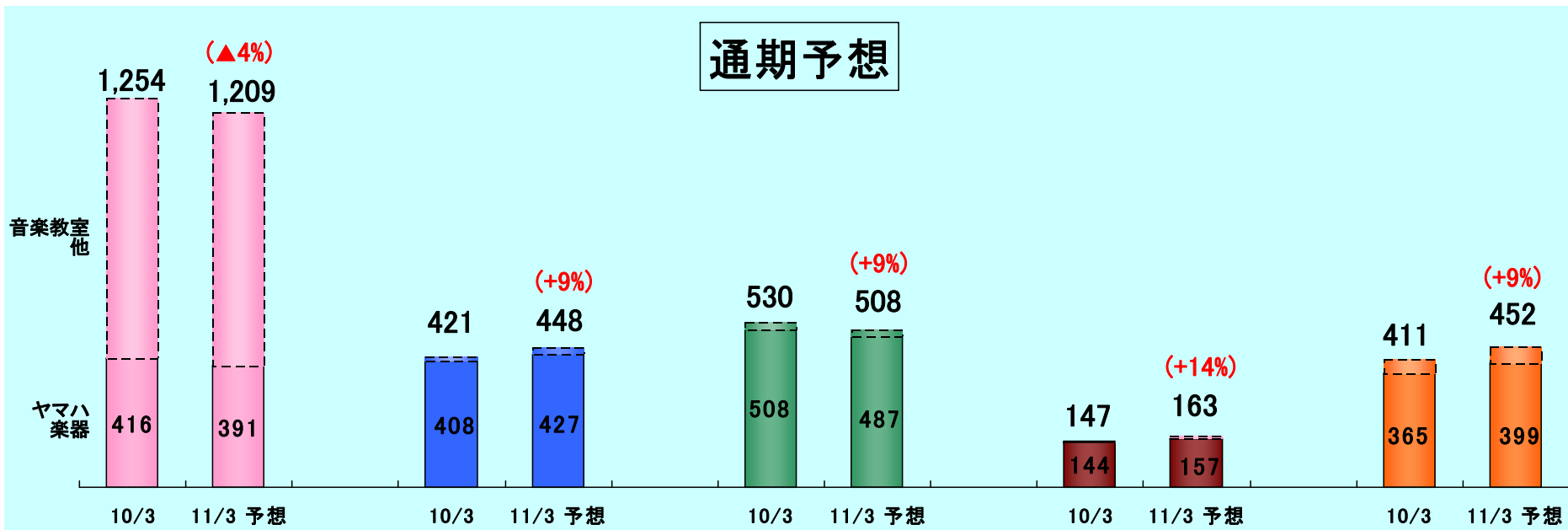
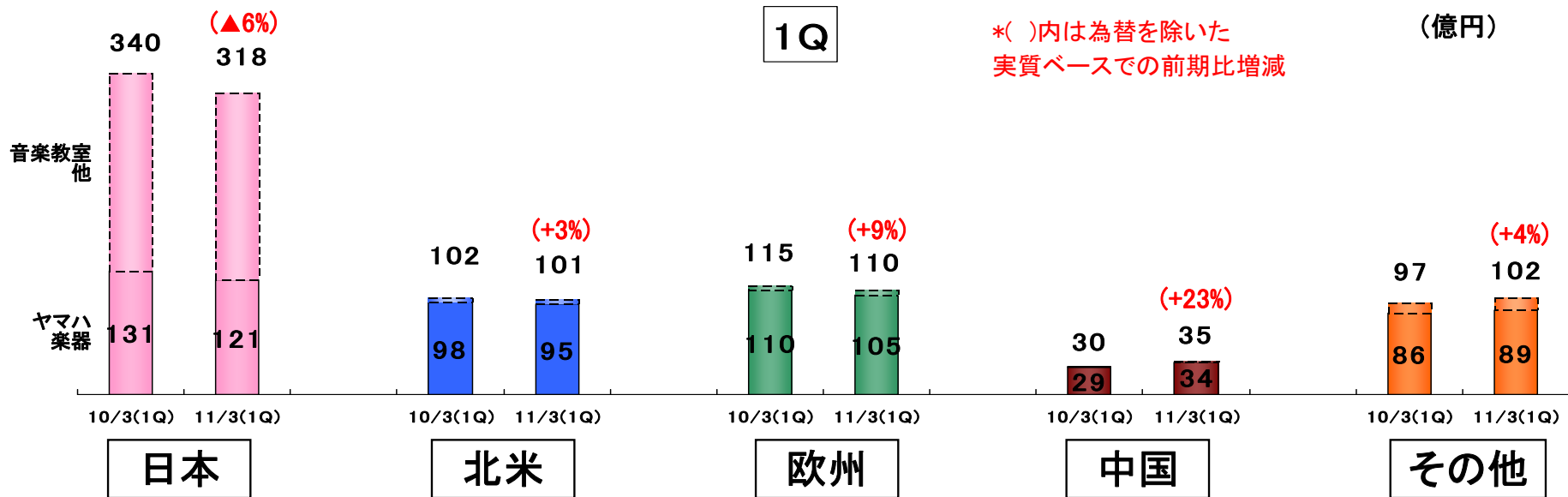
- ・対前年同期、前回予想とも減収増益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、対前年同期0.3% (3億円) の増収。対前回予想では実質1.8% (12億円) の減収
- ・中国は主力のピアノを軸に引き続き堅調に推移。北米はピアノ、管楽器が復調傾向。欧州も南欧で市況回復遅れるものの、ドイツ、東欧は改善。日本はピアノ低迷が継続
- ・営業利益は、増産と経費削減が奏功し、対前年同期、前回予想とも増益
- ・在庫は各商品群とも適正水準

## 通期予想と重点施策

- ・為替影響により、対前回予想減収減益
- ・欧米年末需要期に合せた新製品の確実な市場投入
- ・成長市場(中国、新興国市場)での拡販
- ・市場動向に合わせた最適生産体制構築
  - 中国、インドネシア工場増産
  - 国内ピアノ工場統合完了(8月)
  - 国内管楽器工場統合推進



# 楽器事業(地域別の販売状況)

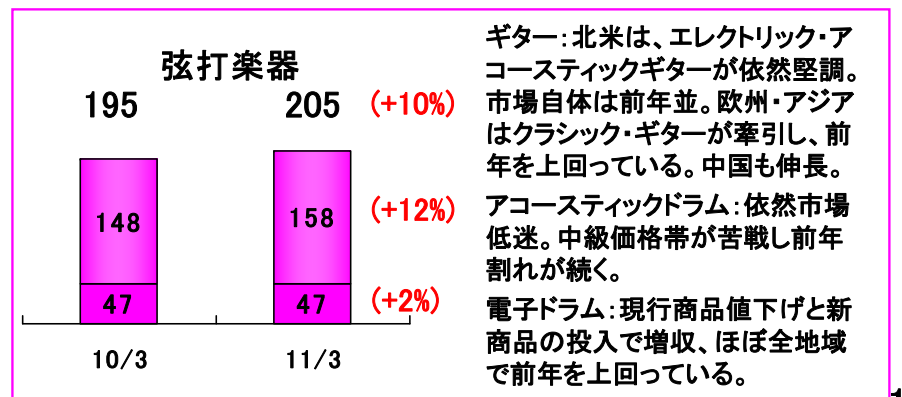
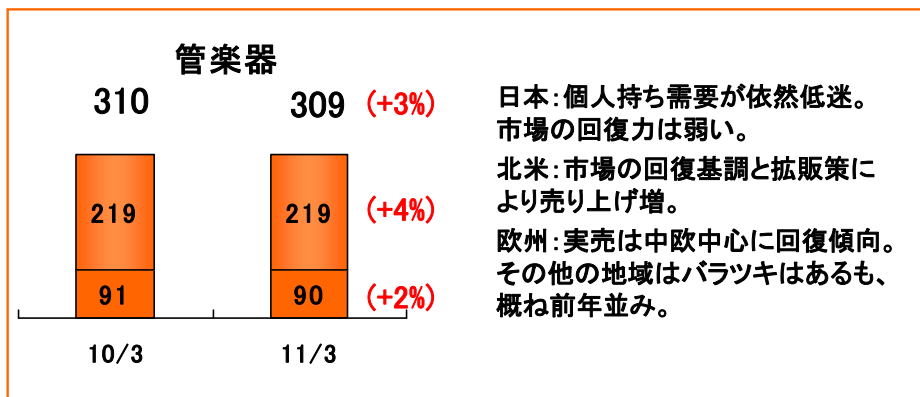
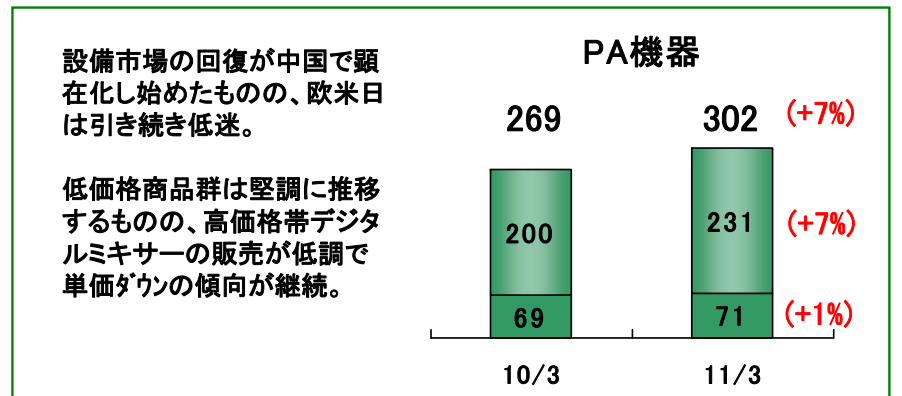
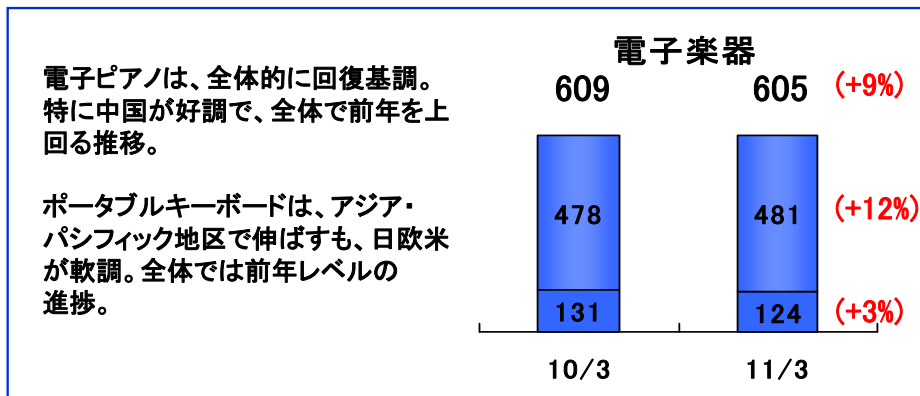
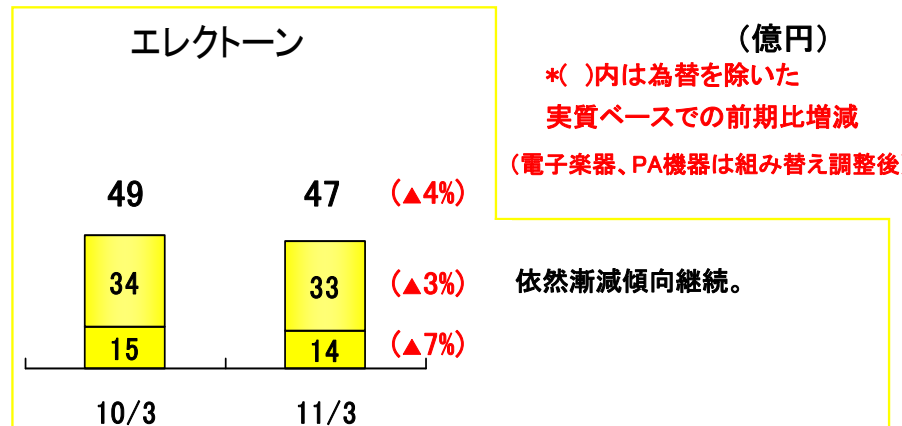
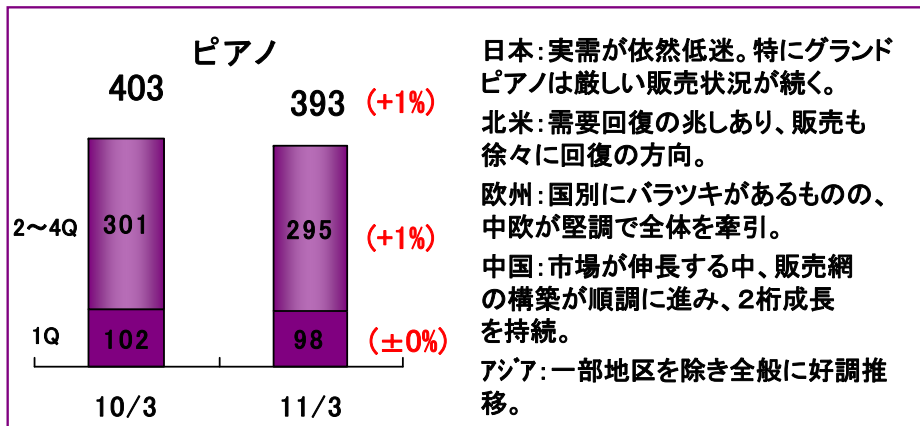


# 楽器事業(地域別の販売状況)



	楽器地域別状況
日本	全般的に低価格傾向が顕著で、計画・前年とも下回る。ピアノも低価格帯品・中古品への買い下がりの流れが進行。現在トライアルで高評価のインドネシア製アップライトピアノを年末に正式投入するなど新商品や各種販促策等により、巻き返しを図る。
北米	失業率は依然高いものの、消費動向は上向きに転じている。1Qは鍵盤楽器中心に売上高を伸ばし、楽器トータルでは現地通貨ベースで前年オーバー。設備音響市場も未曾有の危機状況は脱したと見られるが、本格的な回復まではもう少し時間がかかると考えられる。
欧州	現時点でギリシャ経済危機の楽器市場に与える影響は僅少。中欧中心に鍵盤・管楽器などの市況に回復傾向が見られる。一方、南欧・英国は依然スロー。設備音響市場も回復の兆しあるが、競争激化で、苦戦。
中国	ピアノで売り上げを伸ばし、計画を若干上回る。ポータブルキーボードの2～3級都市への販路拡大やギター的重要店開拓等、販売網の整備が更に進む。音楽教室生徒数は直営3センターの募集強化策の効果が出始め、前年比増加したものの計画には及ばず。
その他の地域	1Qでは全体で計画・前年を上回るものの、市場ごとの差が大きい。豪州を筆頭に台湾・マレーシア・インドネシア・メキシコが苦戦。一方、中東や中南米などの新興市場で回復の兆し。インド・ロシア市場では販売網整備の成果が出始めている。商品別ではCA製品とドラム以外は総じて堅調に推移。通期では、対計画、対前期とも上回る見込み。

# 楽器事業(商品群別の販売状況)

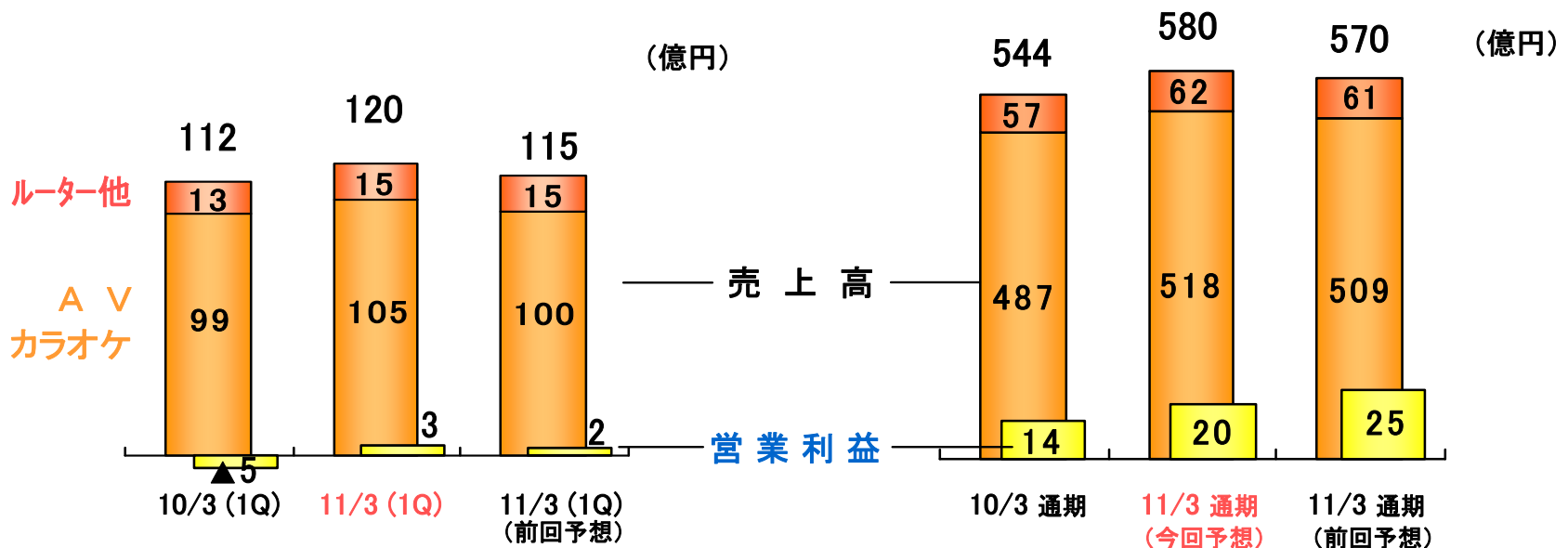


## 1Qの状況

- ・対前年同期、前回予想とも増収増益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、対前年同期11.6% (13億円)の増収
- ・オーディオは、AVレシーバーの価格競争激化。国内ではフロントサラウンド商品が前年同期比増収
- ・ルーター、カラオケ機器も順調

## 通期予想と重点施策

- ・為替影響により、通期営業利益を下方修正
- ・顧客志向に合わせた商品導入によるAVビジネスでの成長
  - 中高級AVレシーバー拡販
  - ラッカー体型スピーカーなどTV周辺機器拡販
  - デスクトップオーディオ等新ジャンル商品強化
  - 引き続き、部品内製化促進と材料コストダウンによる製造原価低減
- ・カラオケ次期モデルの開発
- ・ルーターは海外市場開拓

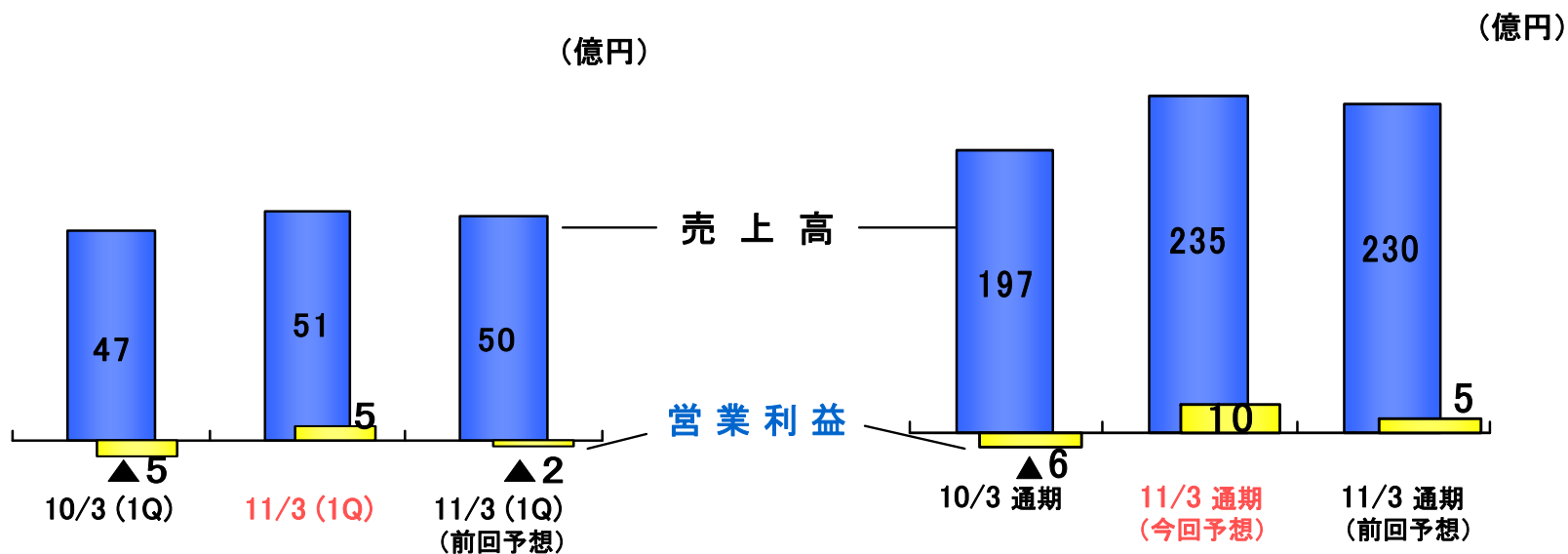


## 1Qの状況

- ・対前年同期、前回予想とも増収増益
- ・売上高は携帯電話用音源LSIの減少継続。  
アミューズメント画像、地磁気センサが対前年同期増収
- ・営業利益は増収と売上構成変化により、対前年同期、  
前回予想とも増益

## 通期予想と重点施策

- ・対前回予想増収増益
- ・固定費削減による収益力強化
- ・付加価値提供による携帯電話用音源LSIの維持
- ・スマートフォン向け地磁気センサと車載画像LSIの  
拡販

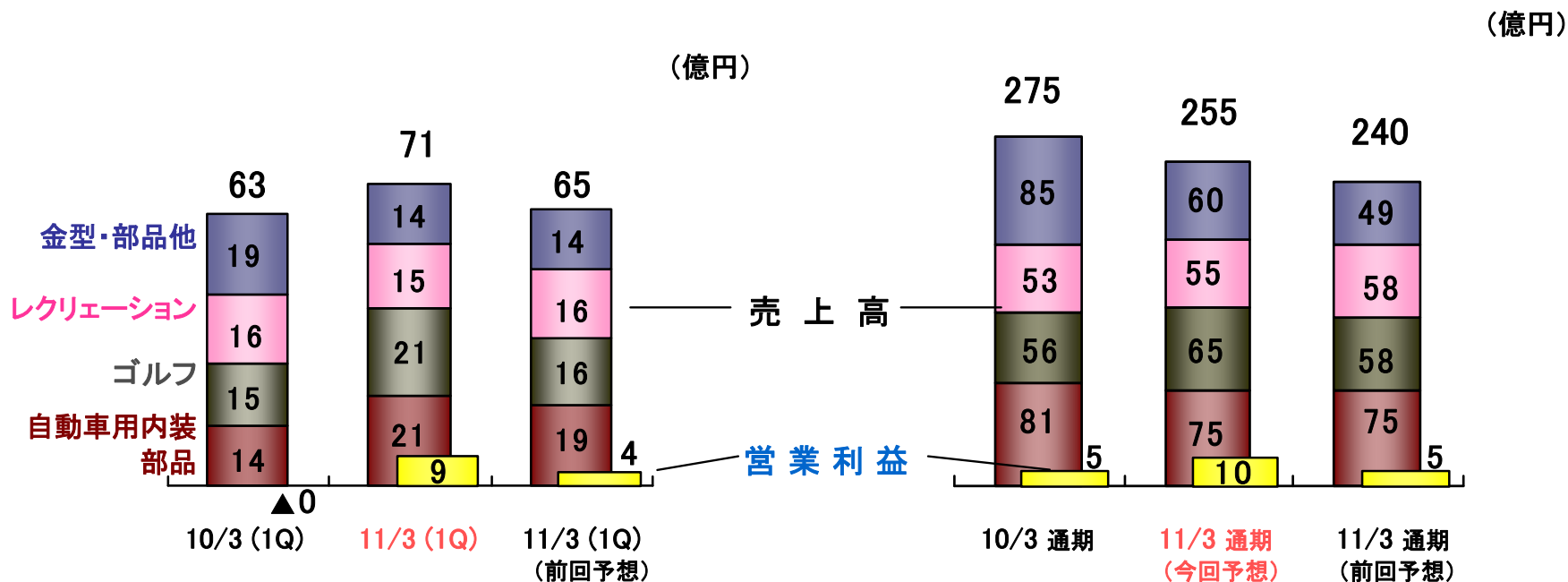


## 1Qの状況

- ・対前年同期、前回予想とも増収増益
- ・自動車用内装部品増産、FA受注回復
- ・ゴルフは国内外とも好調

## 通期予想と重点施策

- ・対前回予想増収増益
- ・自動車用内装部品は一層の損益分岐点の引き下げによる収益確保
- ・ゴルフは競争力ある新製品開発によるシェア拡大
- ・レクリエーション事業は施設の魅力を生かした商品企画の提案と固定費削減により、損益改善を目指す





# 設備投資額・減価償却費/研究開発費

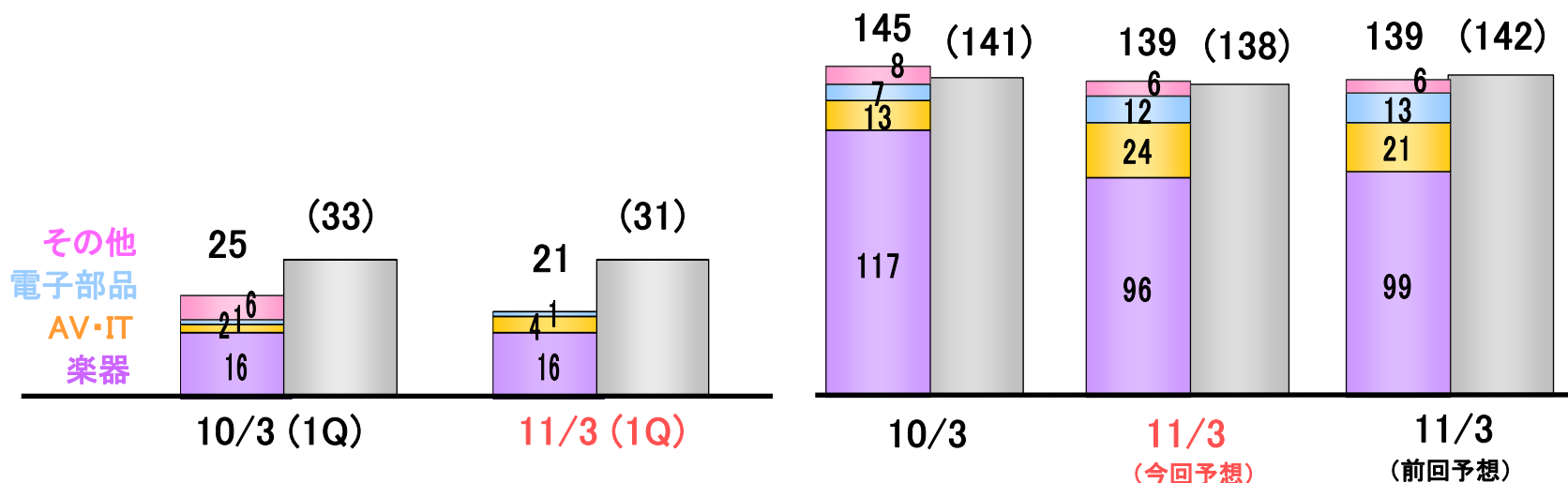


## 設備投資額(減価償却費)

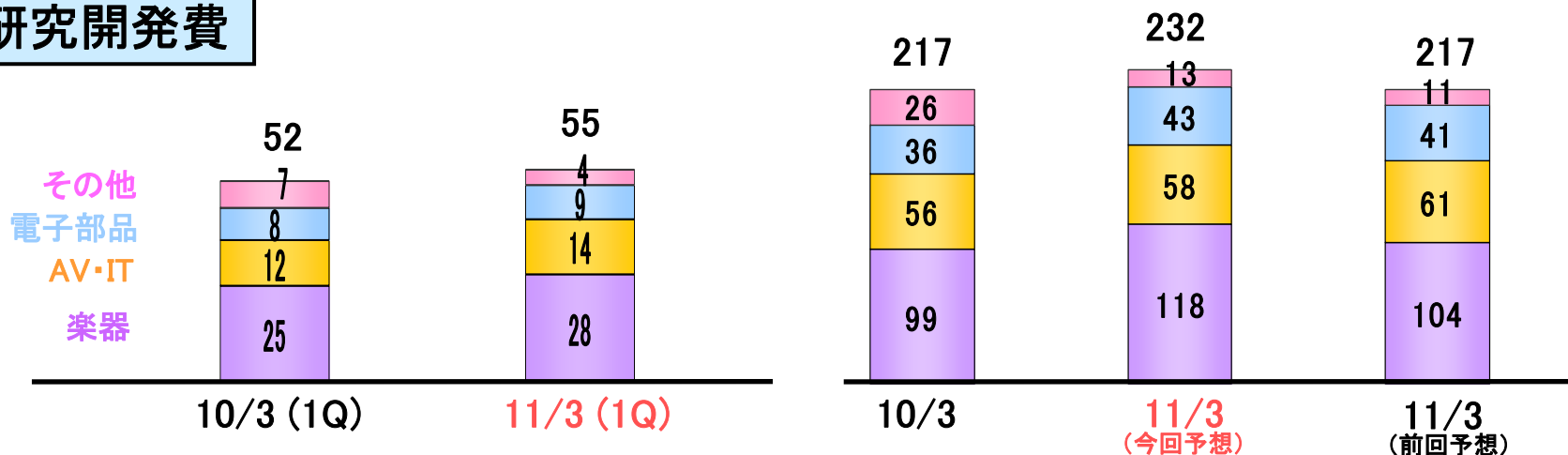
1Q

通期

(億円)

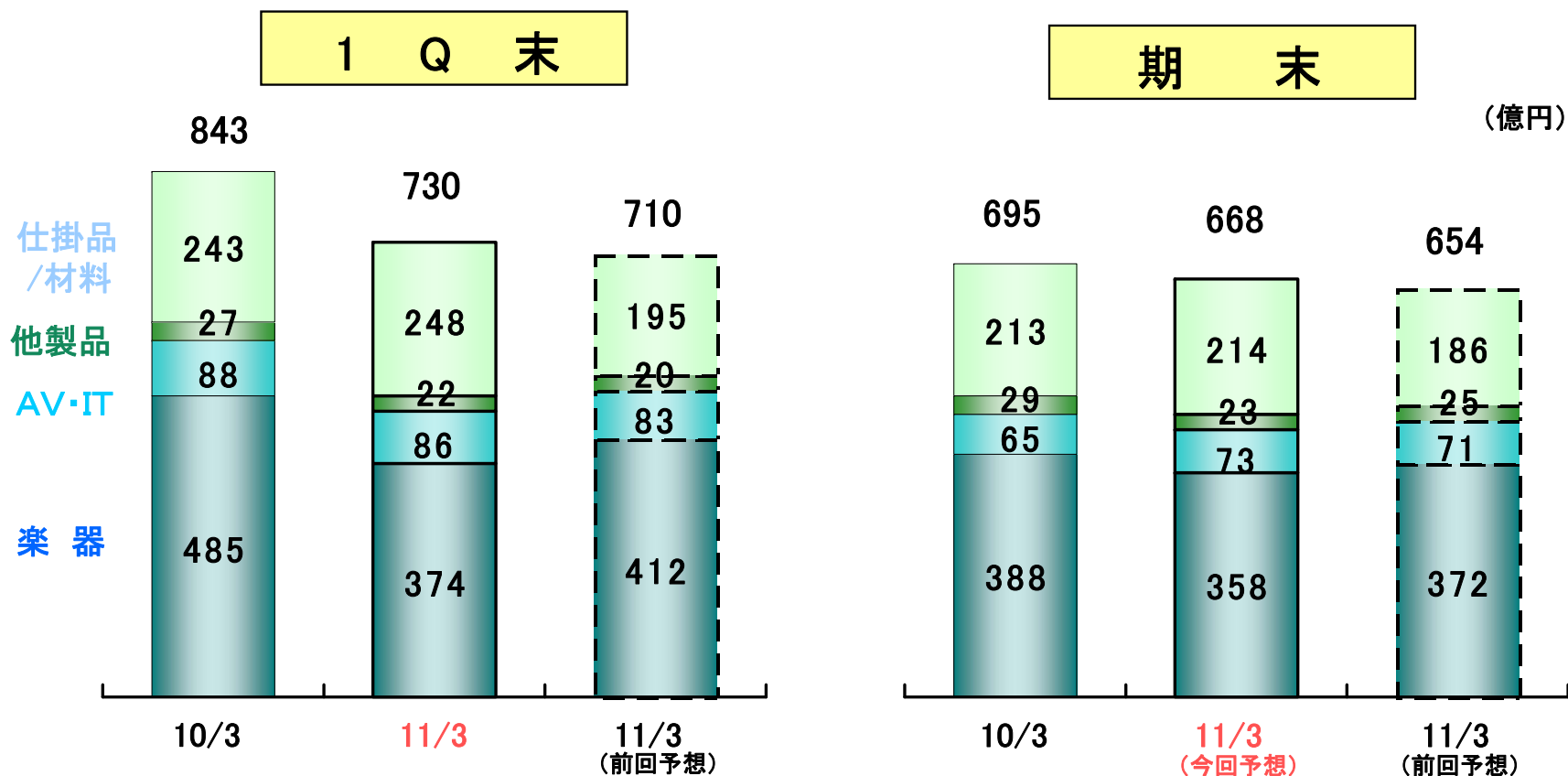


## 研究開発費



# 棚卸資産

- 1Q末総在庫は対前年同期 113億円の減少。  
(連結対象範囲の変更影響及び為替影響を除けば実質44億円の減少)
- 前回予想に対しては、為替影響を除けば、実質35億円の増加



# 予想貸借対照表



(億円)

	1Q末			期末予想		
	09/6末	10/6末	増減	10/3末	11/3末	増減
現預金	365	506	▲141	594	568	▲26
売上債権	525	450	▲75	474	481	▲7
棚卸資産	843	730	▲113	695	668	▲27
他流動資産	243	173	▲70	170	195	▲25
固定資産	2,123	1,961	▲162	2,089	1,961	▲128
<b>資産計</b>	<b>4,099</b>	<b>3,820</b>	<b>▲279</b>	<b>4,022</b>	<b>3,873</b>	<b>▲149</b>
仕入債務	258	233	▲25	218	226	▲8
借入金	196	137	▲59	150	111	▲39
リゾート預託金	166	160	▲6	161	160	▲1
他負債	930	892	▲38	947	946	▲1
純資産計	2,549	2,398	▲151	2,546	2,430	▲116
<b>負債純資産計</b>	<b>4,099</b>	<b>3,820</b>	<b>▲279</b>	<b>4,022</b>	<b>3,873</b>	<b>▲149</b>



# 付属資料

# 2011/3期 1Q営業外損益、特別損益



	10/3 (1Q)実績	11/3 (1Q)実績	11/3 (1Q)前回予想
(億円)			
<b>営業外損益</b>			
金融収支	2	5	1
その他	▲9	▲8	▲6
計	▲7	▲3	▲5
<b>特別損益</b>			
固定資産処分損益	▲1	▲1	1
その他	0	▲13	▲1
計	▲1	▲14	0
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                     投資有価証券評価損 ▲15                 </div>			
<b>法人税他</b>			
法人税等	7	13	4
法人税等調整額	15	▲1	5
少数株主利益	1	1	1
計	23	13	10

# 2011/3期 営業外損益、特別損益



	10/3 実績	11/3 今回予想	11/3 前回予想
(億円)			
<b>営業外損益</b>			
金融収支	3	5	0
その他	▲22	▲30	▲25
計	▲19	▲25	▲25
<b>特別損益</b>			
固定資産処分損益	0	▲7	▲1
その他	▲51	▲8	▲4
計	▲51	▲15	▲5
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマハリピングテック譲渡 ▲22</li> <li>・減損損失 ▲20</li> <li>・インドネシア過年度関税 ▲6</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0ffff;">                     投資有価証券評価損 ▲15                 </div> </div>			
<b>法人税他</b>			
法人税等	31	35	26
法人税等調整額	13	▲15	▲13
少数株主利益	4		2
計	47	20	15

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。